

【新設】

※全セッション並びに選択セッションの申込み可

変容を迫られるIT監査と多層的モニタリングの 具体的進め方

～ITガバナンス監査/情報管理 徹底理解のための4回講座～

◆ 開催趣旨 ◆

企業の業務が情報システムを利用し、実施されるようになってから久しいですが、情報システムの点検・評価も開発され、運用段階での情報システムを対象とする場面が多い状況です。現在ホットなテーマのマイナンバー制度については、通常情報システムの改修を伴いますが、クラウド利用等で何とか乗り切れるといった声も多く、また、サイバー攻撃や標的型メールも金融機関や社会的基盤を担う企業以外では関心が薄い感もあります。

本講座では、情報システム部門でのSE経験と25年に及ぶシステム監査や第三者認証審査経験を通して、経営上の重要なテーマやホットなテーマを以下の4回に分けて構成し、情報システム部門、監査部門のブリッジセミナーとして開講するものです。

1. システム化投資を無駄にしないシステム事前評価
2. マイナンバー対応とクラウド利用の監査
3. サイバーセキュリティ管理と監査
4. 多層的ITモニタリングと監査

事例紹介も行う一回完結型で、最終回はモニタリングと監査を整理した多層的なモニタリングと監査をご紹介致します。ぜひ、関係各位のご参加をお勧め申し上げます。



■ 講師：川辺良和（かわべよしかず）氏

(有)インターギデオン代表、システム監査学会理事。1980～88年日本鉱業(株)（現JXホールディングス）情報システム部勤務、1989年(有)インターギデオン設立、1991年経済産業省登録システム監査企業。2002年公認システム監査人CSA特別認定講習実施機関認定。資格：ISMS主任審査員、公認システム監査人、特種・システム監査技術者、プロジェクトマネージャ。著書：システム監査基準解説書(共著：経済産業省監修)、プライバシーマーク制度における監査ガイドライン(共著：JIPDEC)、システム監査入門(共著：コンピュータエッジ)、システム監査午後重点対策(アイテック)等多数。

	日程	内容		日程	内容
セッション1	2015年 11/19(木) 13:30～16:30 永田町・ 全国町村会館	システム化投資を無駄にしないシステム事前評価 情報が経営資源の構成要素の1つとして位置づけられた現在、システム化投資の可否を判断する場面が増えています。情報システムの開発と運用期間の長さを考慮すると、その重要性は言うまでもありませんが、必ずしも適切な評価者と判断材料が揃ったの判断評価は少ないようです。本セミナーでは、そうしたシステム化投資の基本的考え方についてお話しします。 【セミナーのポイント】 ・戦略・企画段階のシステム評価の意義 ・経営戦略、情報戦略、全体システム化計画、個別システム化計画の整合性 ・全体最適と優先順位：今、当該システムを開発する意義と目的 ・QCDSの観点からの実現可能性の評価	セッション3	2016年 1/20(水) 13:30～16:30 永田町・ 全国町村会館	サイバーセキュリティ管理と監査 不正アクセスや標的型メールによるサイバー攻撃により個人情報情報が漏洩・流出し、実害が出ている現状、今後サイバーセキュリティ管理は重要性を増す問題です。アクセス管理や入口・出口対策などの技術的側面はもちろんですが、組織的人的対策整備も重要です。 人的対策の一翼を担う監査、その基本的考え方とチェックポイントについてお話しします。 【セミナーのポイント】 ・サイバー攻撃、その状況と事例 ・サイバーセキュリティの基本的な考え方 ・企業で取り組むべきサイバー攻撃への対策 ・監査の基本的な考え方とチェックポイント
セッション2	12/3(木) 13:30～16:30 永田町・ 全国町村会館	マイナンバー対応とクラウド利用の監査 改正個人情報保護法（マイナンバー対応法）が正式決定し、2016年1月からマイナンバー制度が開始されます。マイナンバーに対する安全管理措置が必要な一方、クラウド利用の潮流も勢いがあります。 本セミナーでは、監査として何をすべきか、基本的な考え方とチェックポイントをお話しします。 【セミナーのポイント】 ・事業者が取り組むべきマイナンバー対応と安全管理措置 ・安全管理措置の具体的な内容：必要な規程類やマニュアル ・マイナンバー対応とクラウド利用管理 ・監査の基本的な考え方とチェックポイント	セッション4	2/5(金) 13:30～16:30 麹町・ 企業研究会 セミナールーム	多層的ITモニタリングと監査 情報化環境の目覚ましい進展とともに、外部からはサイバー攻撃、内部は内部犯行による個人情報の大量漏洩が発生しています。こうした状況は組織にも重要な問題でルール整備を初め、多くの取組みがなされています。情報の取り扱い現場、内部監査、認証取得や外部監査の観点を踏まえ多層的なモニタリングと監査の考え方についてお話しします。 【セミナーのポイント】 ・重要情報を定義とリスク分析 ・第1層：ベースは現場担当者・マネージャの点検 ・第2層：マネジメントシステムと内部監査 ・第3層：認証取得と外部システム監査

システム化投資を無駄にしないシステム化事前評価

(1) はじめに

「情報」がヒト、モノ、カネと並ぶ経営資源として認識され、情報システム自体の良し悪しが企業の経営に重大な影響を及ぼす状況を踏まえ、これまで以上に「システム化投資を無駄にしないシステム化事前評価」が重要になっていることは言うまでもありません。

ここでは、情報戦略や企画業務等のシステム化の最上流についてのシステム監査の考え方をベースに「整合性」、「全体最適と優先順位」、「実現可能性」の3つのキーワードをベースにして「システム化投資を無駄にしないシステム化事前評価」について考察します。

(2) 経営戦略から個別システム化計画、3つの整合性

- ① 情報戦略の経営戦略への整合性
- ② 全体システム化計画の情報戦略への整合性
- ③ 個別システム化計画の全体計画への整合性

(3) 全体最適と優先順位

- ① システム化決定プロセスの明確化と適切性
- ② システム化決定評価者の妥当性
- ③ システム化対象の経営方針への適合性

(4) 個別システム化計画と実現可能性

- ① 期間と要員に見る実現可能性
- ② 設備と費用に見る実現可能性
- ③ 目的、方法、効果に見る実現可能性

(5) システム化事前評価ケーススタディ

- ① システム化事前評価ケーススタディ
- ② 意見交換

(6) 「システム化投資を無駄にしないシステム化事前評価」のまとめ

3つのキーワード、ケーススタディと意見交換をベースに今後の監査の課題を展望します。

【ご講演のポイント】

情報が経営資源の構成要素の1つとして位置づけられた現在、システム化投資の可否を判断する場面が増えていきます。情報システムの開発と運用期間の長さを考慮すると、その重要性は言うまでもありませんが、必ずしも適切な評価者と判断材料が揃っての判断評価は少ないようです。本セミナーでは、そうしたシステム化投資の基本的考え方について、お話しケーススタディを交え意見交換を行い、今後を展望します。

マイナンバー対応とクラウド利用の監査

(1) はじめに

2016年1月からマイナンバー制度が開始されます。全事業者が対象で番号付与が住民票対象者のため、企業だけでなく社員の配偶者や扶養親族等にも大きな影響を及ぼします。マイナンバー対応の安全管理措置は不可欠ですが、情報漏洩対策等のリスクを考慮するとマイナンバーを自社で保有するのではなく、マイナンバー対応クラウドサービスを利用する方法が注目されています。

ここでは、「マイナンバー制度」と「クラウドコンピューティング（以下クラウド）」について、システム監査の観点から考察します。

(2) マイナンバー対応の概要

- ① マイナンバー制度の概要
- ② マイナンバー対応安全管理措置の概要とポイント
- ③ 安全管理措置とビッグデータの活用

(3) マイナンバー対応におけるクラウド利用

- ① クラウドコンピューティングとその特徴
- ② マイナンバー対応におけるクラウド利用の状況
- ③ マイナンバー対応クラウド業者選定基準と契約のポイント

(4) マイナンバー対応クラウド利用の監査

- ① マイナンバー対応に対する監査の考え方
- ② クラウド利用に対する監査項目とポイント

(5) マイナンバー対応とクラウド利用の監査ケーススタディ

- ① マイナンバー対応とクラウド利用監査ケーススタディ
- ② 意見交換
- ③ まとめ

マイナンバー制度とクラウド利用、ケーススタディと意見交換をベースに今後の監査の課題を展望します。

【ご講演のポイント】

2015年10月から通知カード、2016年1月から番号カードが配布されマイナンバー制度が開始されます。マイナンバーに対する安全管理措置が必要な一方、マイナンバーを自社保有でなくクラウド利用の潮流も勢いがあります。本セミナーでは、マイナンバー制度と安全管理措置、クラウドに対して、監査として何をすべきか、その基本的な考え方とチェックポイントをお話します。

サイバーセキュリティ管理と監査

(1) はじめに

標的型メールや不正アクセスによって、個人情報等の流出が発生しており、情報セキュリティ対策は急務の状況にあります。我が国では2015年1月、サイバーセキュリティ基本法が全面施行され、2月には金融庁が監督指針や金融検査マニュアルを改訂し、本格的な取り組みを開始しています。

ここでは、「サイバー攻撃」と「対応体制としてのセキュリティ管理」について、システム監査の観点から考察します。

(2) サイバー攻撃の状況

- ① サイバー攻撃とは
- ② サイバー攻撃のもたらす影響
- ③ サイバーセキュリティ対策の状況

(3) サイバーセキュリティ管理

- ① サイバーセキュリティ情報収集
- ② サイバーセキュリティ監視体制
- ③ サイバーセキュリティ管理と教育

(4) サイバーセキュリティ管理と監査

- ① サイバーセキュリティ管理に対する監査の考え方

- ② サイバーセキュリティ管理に対する監査の留意点

- ③ サイバーセキュリティ管理に対する監査チェックリスト

(5) サイバーセキュリティ管理と監査ケーススタディ

- ① 事例：サイバーセキュリティ管理と監査
- ② 意見交換

(6) 「サイバーセキュリティ管理と監査」のまとめ

サイバーセキュリティ管理の状況について、ケーススタディと意見交換をベースに今後の監査の取組と課題を展望します。

【ご講演のポイント】

不正アクセスや標的型メールによるサイバー攻撃により個人情報や漏洩・流出し、実害が出ている現状を踏まえ、今後サイバーセキュリティ管理は益々重要性を増す問題であることは言うまでもありません。

アクセス管理や入口・出口対策などの技術的側面はもちろんですが、組織的対策や人的対策整備も重要です。教育とともに、人的対策の一翼を担う監査、その基本的考え方とチェックポイントについてお話しします。

多層的 IT モニタリングと監査

(1) はじめに

情報システムに係るリスクは自然災害、システム障害、故意(犯罪・不法行為)、過失(ヒューマンエラー)、権利の侵害(個人情報、知的財産権、営業機密等)、その他と言われています。また、リスクが顕在化した状態として「漏洩」、「改ざん」、「破壊」が挙げられます。

ここでは、重要情報を整理するとともに、リスクが顕在化した状況への対策として、多層的 IT モニタリングと監査を考察します。

(2) 多層的 IT モニタリングの必要性

- ① 情報・情報システムに係るリスク
- ② 顕在化したリスク：漏洩、改ざん、破壊
- ③ 重要情報とは：重要情報の定義、取扱ルール の例

(3) 多層的 IT モニタリングと監査

- ① IT モニタリングの状況と役割
- ② 外部監査の果たすべき役割
- ③ 多層的 IT モニタリングと監査

(4) 多層的 IT モニタリングの構築

- ① 第1層(当事者による点検)：自主点検とマネージャの監督
- ② 第2層(内部監査組織による点検)：内部監査

- ③ 第3層(第三者認証機関からの認証)：外部認証取得

- ④ 第4層(外部監査)：外部監査の対象領域

(5) 多層的 IT モニタリングケーススタディ

- ① 事例：重層的 IT モニタリングケーススタディ
- ② 意見交換

(6) まとめ

多層的 IT モニタリング、ケーススタディと意見交換をベースに今後の監査の取組を展望します。

【ご講演のポイント】

情報化環境の目覚ましい進展とともに、外部からはサイバー攻撃、内部は内部犯行による個人情報の大量漏洩が発生しています。こうした状況は組織にも重要な問題でルール整備を初め、多くの取組みがなされています。情報の取り扱い現場、内部監査、第三者認証取得や外部監査の観点を踏まえ、重層的なモニタリングと監査の考え方についてお話しします。

■ 参加要項

● 受講料(1名:消費税込み)

本コースは各セッション単位のご選択申し込みも可能です。全セッションをご受講の際は、下記の通り割引料金となります。お申し込みの際には、ご受講を希望されるセッションの「チェック欄」に「○」をご記入下さい。セッション単位。あるいは各回会合において、ご都合で出席者の変更も可能です。

● 全セッション(計4会合)&選択別セッション受講料

受講セッション		正会員	一般	チェック欄
150302-0	全セッション	118,800円 (本体価格 110,000円)	131,760円 (本体価格 122,000円)	
150302-1	セッション 1 2015.11.19(木)	32,400円 (本体価格 30,000円)	35,640円 (本体価格 33,000円)	
150302-2	セッション 2 2015.12.3(木)	32,400円 (本体価格 30,000円)	35,640円 (本体価格 33,000円)	
150302-3	セッション 3 2016.1.20(水)	32,400円 (本体価格 30,000円)	35,640円 (本体価格 33,000円)	
150302-4	セッション 4 2016.2.5(金)	32,400円 (本体価格 30,000円)	35,640円 (本体価格 33,000円)	

※資料代を含みます。

※会員企業一覧は当会ホームページにてご確認ください。

● 申込方法

- ◇ご受講希望セッション、及び下記申込書に所定事項ご記入の上、FAXにてお送りいただくか、下記担当者あてにEメールにてご連絡下さい。
- ◇当会ホームページからお申し込み頂けます。Eメールやホームページからのお申し込みの際は、返信欄に希望セッションを明記くださいますようお願いいたします。
- ◇お申し込み後のキャンセルは原則としてお受け致しません。やむを得ない場合は事務局までご相談下さい。

● お申し込み・お問い合わせ先

一般社団法人 **企業研究会** 事業開発部 担当：福山 誠一

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 麹町 M-SQUARE 2F

TEL 03-5215-3513 / FAX 03-5215-0951~2 / E-mail:fukuyama@bri.or.jp (福山)

<http://www.bri.or.jp>

事業コード 150302

新設「変容を迫られるIT監査と多層的モニタリングの 具体的進め方」申込書

一般社団法人 **企業研究会** 事業開発部 担当：福山

FAX. 03-5215-0951~2

2015年 月 日

会社名		所在地 〒			
参加者氏名	フリガナ	所属	役職		
TEL	フリガナ	所属	役職		
FAX					
参加者氏名	フリガナ	所属	役職		
TEL					
FAX		E-mail			
備考					

*お客様の個人情報は、本会合の連絡や名簿の作成および当会主催のご案内をお送りする際にのみ利用させていただきます。